

営 巢

染 谷 秀 雄

我が家の玄関脇に散らし玉仕立ての柵がある。かれこれ四十余年経つ。ここに鶇がいつの間にか営巢を始めた。日ごろは余り見ることのない柵だが目の高さに卵を抱いているのを見たときはびっくりした。鶇は警戒心が強い鳥だ。それからというものの家の出入りには卵が孵るまで鶇と目を合わせず見て見ぬふりをしてその脇を通った。もう孵る頃かと思いい巢を見てみたら既に空っぽだった。何かの動物にやられたか、親鳥が啜えて巢を出たか、それとも巢立ったのか、地面に落ちていないか、とあたりを探したがわからなかった。暫くして今度は鳩が、家の前の電線に来ては鳴いている。或日、玄関ドアを開けて家から出ようとしたとき柵の枝から急に鳩が飛び翔った。何かと思いい枝のところを見てみると小枝や藁のようなものが懸かっている。どうやら鳩が巢を作り始めたようだ。インターネットを繰ってみた、すると鳩は帰巢本能があり一旦巢を作って棲みつくとも毎年やってきて糞を撒き散らしてそこら中、大変なことになるといふのを読んだとき、慌てて柵の巢の材料を取っ払った。そして二度と枝の中に入られないように長い支柱を差し込んだ。それでもまた、材料を運んできた。そこでもう二本追加して入り込まれないよう嚴重に防いだ。これで一件落着である。どうも柵は棘を持っていることと枝の仕立てが雨も防げかつ、空からも見つからず営巢には安全でよい環境なのだろう。しかし今年また、柵に営巢材料らしきものが運び込まれた。今度はまたも鶇のようだ。こちらも勝手を知っているため、早めに取り除いた。でも又、運び込まれる。それを二、三度繰り返すうちにふと営巢日記をつけてみようと思いい立ち支柱をすべて取り払い、妻には運ばれる材料は取り除かずそのままにしておくように伝え、次に運ばれてくるのを待った。しかしそれからはいくら待っても巢作りの気配がなく残念な気持と寂しさが残る営巢の顛末である。